

參考資料

参考資料 用語集

A～Z

A I

Artificial Intelligence（人工知能）の略。

これまで人間にしかできなかったような推論・判断などの知的な機能を人工的に再現するもの。また、これらの機能を備えたコンピューターシステム。

D M A T

災害派遣医療チームの略（Disaster Medical Assistance Team）。

D X（デジタルトランスフォーメーション）

Digital Transformation の略。

「進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革する」というもの。

I C T（高度な情報通信技術）

Information and Communications

Technology（情報通信技術）の略。

情報や通信に関連する科学技術の総称。

特に、電気、電子、磁気、電磁波などの物理現象や法則を応用した機械や器具を用いて情報を保存、加工、伝送する技術。

I o T

Internet of Things（モノのインターネット）の略。

様々なモノがインターネットに接続することを指す。モノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔操作などを行うこと。

L R T・B R T

LRTは、Light Rail Transitの略で、低床式車両（LRV）の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システム。

BRTは、Bus Rapid Transit（基幹バスシステム）の略。連節バス、PTPS（公共車両優先システム）、バス専用道、バスレーンなどを組み合

わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム。

MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）

Mobility as a Service（サービスとしての移動）の略。

地域住民や旅行者の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

M I C E

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。

Park-PFI（公募設置管理制度）

公園のパブリックスペースを整備・運営する民間事業者を公募により選定する制度。

S D G s（持続可能な開発目標）

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。

2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標で、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成。

S D G s アクションプラン

SDGs実施指針に基づき、SDGs達成に向けた政府の具体的な施策をとりまとめたもの。策定主体は、国・県・市が策定できる。

Society5.0（超スマート社会）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

ZEB・ZEH

ZEBは net Zero Energy Building、ZEHは net Zero Energy House の略。

建築物における一次エネルギー消費量を、建築物・設備の省エネ性能の向上、再生可能エネルギーの活用等により削減し、年間でのエネルギー消費量が正味でゼロ又は概ねゼロとなる建築物のこと。

あ行

イノベーション

まったく新しい発想、革新的な手段・方法（の創造）、新機軸などの意味。画期的な新技術やまったく新しい物事の仕組みを創造し、世の中に变革を促すこと。

インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のこと。

インクルーシブ

包摂性。属性、ニーズなどの多様性を認めあうこと。

2015年の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない社会の実現を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」では、インクルーシブな考えを前提。

影響シミュレーション

デジタルデータを活用して、気象環境や交通環境に対するシミュレーションを実施し、状況変化に応じた普天間飛行場跡地周辺への影響を検証する作業。

エイサー

沖縄本島・周辺の島々の盆踊で、呼称は囃子言葉の「エイサー」から来たもの。

旧暦7月15日宵の頃に、ウークイ（精霊送り）を済ませた青年たちが集落の広場に集まり、エイサーを踊りながら各戸を巡って先祖供養をする。

エネルギーの面的利用

個々の建物ではなく、面的な複数の建物間で電

力や熱の融通を行うシステムのこと。

エネルギーマネジメントシステム

エネルギー管理体系であり、エネルギー使用に関して、方針・目的・目標を設定し、計画を立て、手順を決めて管理する活動を体系的に実施できるようにした仕組みのこと。

オルソ画像

地理情報システム（GIS）などにおいて画像上で位置、面積及び距離などを正確に計測することが可能な画像のこと。

か行

交通需要予測

普天間飛行場跡地利用後の発生交通量を予測し、周辺地域における道路ネットワークにおける将来の交通量を予測すること。

環境影響評価（環境アセスメント）

事業の実施が環境に及ぼす影響について、事業者自らが、事業の実施前にあらかじめ調査・予測・評価を行うとともに、環境保全措置を検討し、この措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価すること。

涵養

雨水など地表にある水が地下にしみわたって帯水層（たいすいそう）に供給されること。

グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。

高次都市機能

都市機能のうち、日常生活圏域を超えた広域圏を対象とする施設などにより、多くの人々に教育、文化、医療、行政、産業、交通、情報等について質の高いサービスを提供できる機能のこと。

さ行

再生可能エネルギー

石油や石炭、天然ガスといった有限で枯渇の危険性を有する化石燃料とは異なり、太陽光や風力、水力、地熱、バイオマスといった自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称。

シマの基層

「普天間公園（仮称）への提言書」（平成 29 年 3 月、普天間公園（仮称）懇談会）で示された概念。固有の自然環境とその風土に育まれた暮らしの知や精神文化、それらが形となった御嶽や湧水、集落構造など、琉球の文化の基層となるものを指す。

将来 OD

O は Origin（出発地）、D は Destination（到着地）の略語で、将来交通量を求める際の起終点を表すもの。

シームレス

途切れのない、継ぎ目のない等の意味。
「シームレスな移動」とは、複数の交通機関や交通手段をスムーズに乗り継げるようにすること。

宿道

王府のある首里を起点として地方にのびる公道で、各間切の番所（現在の町村役場）と番所を結んだ主要な道路。

スマートグリッド

情報通信技術によって電力供給者と消費者を結びつけ、相互に接続・通信することにより、それらの情報を利用して従来よりもきめ細かな制御を行う送配電システム。

スマートシティ

ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメントの高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域。

生態系ネットワーク

生きものの生息に十分な規模の「核となる地域（コアエリア）」、および、それを取り巻く「緩衝帯（バッファゾーン）」を適切に配置・保全するとともに、これらの生物生息・生育空間の「つながり（コリドー）」を確保すること。

生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。国際条約である生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしている。

ソフトパワー

米国ハーバード大学のジョセフ・ナイ教授が提唱した概念。軍事力などの強制的な力により他国に影響力を及ぼすハードパワーに対し、文化、価値観、イデオロギーなど目に見えない間接的な影響力を振り所にした力を指す。
沖縄のソフトパワーとしては独自の歴史・文化、健康・長寿、豊かな自然環境、ユイマールの精神や平和を望む県民の心などが挙げられる。

た行

脱炭素社会（カーボンニュートラル）

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする社会。
令和 2（2020）年 10 月に政府は令和 32（2050）年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言。

地域制緑地

農地や水面などのオープンスペース。土地所有の状況（公共用地、私有地）にかかわらず、法や条例などにより、国、県、市町村が土地利用を規制、誘導して確保する緑地。

地下水涵養手法

雨水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化

して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させること。

超高感度トレーサー法

トレーサ物質としてホルミウムやジスプロシウムなどの希土類元素のキレート化合物を用いて分析する方法のこと。

デジタルツイン

現実世界（リアル）にある情報をリアルタイムに仮想デジタル空間へ展開し、状況の可視化・予測シミュレーション等を実施するデジタルコンテンツのこと。

ドリーネ

カルスト台地のあちこちにある地面がすり鉢状にへこんだ所。

カルスト地形はもともとサンゴ礁が化石化して隆起した地形で、石灰岩で出来ているため水による侵食が激しく、鍾乳洞が出来る過程で地表が陥没する。地表を流れた水は、石灰岩の割れ目から地下にしみ込み、溶食作用を繰り返して、永い間に凹地や鍾乳洞を形成する。この陥没してできた穴がドリーネ。

な行

西普天間住宅地区

返還が予定されている駐留軍用地であるキャンプ瑞慶覧返還地区の一部の地区。

は行

ハシゴ道路

沖縄県における「道路のアンバランスな使われ方」や「那覇都市圏の深刻な交通渋滞」、「基地などによる東西分断により沖縄自動車道ICへのアクセス性の低下」等の交通問題を解消するために整備・構築されている、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶ幹線道路のこと。

以下の4つの要素により構成される。

- ①南北を走る強固な【3本の柱】：国道58号、沖縄自動車道、国道329号
- ②柱を支える【東西連絡道路】：浦添西原線、県道24号線バイパスなど

③高速道路を使いやすくするICの増設

④モノレールと高速バスの連携

パーソントリップ調査

都市における人の移動に着目し、公共交通、自動車、自転車、徒歩といった交通手段の乗り継ぎ状況を捉えるための調査で、10年に1回程度実施。

ビッグデータ

従来のデータベース管理システムなどでは記録や保管・解析が難しいような巨大なデータ群。文字や写真など様々な種類・形式のデータが含まれ、これらを解析することでビジネスや社会の様々な場所での活用が期待されている。

ヒートアイランド現象

都市部において、高密度にエネルギーが消費され、また、地面の大部分がコンクリートやアスファルトで覆われているために水分の蒸発による気温の低下が妨げられて、郊外部よりも気温が高くなっている現象。

フィーダー交通

幹線（鉄軌道等）と接続して支線の役割をもって運行されるLRTや基幹バス（BRT）、路線バス等。

分散型エネルギーシステム

比較的小規模で、かつ様々な地域に分散しているエネルギーの総称であり、従来の大規模・集中型エネルギーに対する相対的な概念。

ボーダレス

境界がないこと。

ポノール

石灰岩地域で地上を流れる河流が地下にもぐって伏流となる場所または吸込み口。多量の雨が降って吸込みきれないときには一時的に周辺が湖のようになる。

ま行

マルチスペクトルカメラ

被写体が放出する光のスペクトル情報を観測できるカメラのこと。

未利用エネルギー

工場排熱、地下鉄や地下街の冷暖房排熱、外気温との温度差がある河川や下水など、有効に利用できる可能性があるにもかかわらず、これまで利用されてこなかったエネルギーの総称。

水収支シミュレーション

平常時の河川水量の状況や利水の安全度を確保するため行う計算。河川の最下流に位置する基準地点・主要地点やその上流区間の流量を合流量の加算や取水量の減算により求めるもので、付随的に取水の不足量や水源施設（ダム）の貯水量も算出する。

モビリティサービス

自動車による目的地までの移動・運搬に関する様々なサービスのこと。

モビリティイノベーション

自動運転といった交通に係る新たな技術の開発が進展することで、社会に対する変革が生じること。

や行

ユニバーサルデザイン

「年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人を使いやすいように、建物・環境をデザインする」という考え方。

ら行

リサーチパーク

研究開発型企業や国の研究機関など、官民の研究施設を中心に立地した研究拠点のこと。

リモートセンシング

リモートセンシングとは、物を触らずに調べる技術で、人工衛星やドローン等を使用した調査

方法のこと。

琉球石灰岩層

南西諸島の中部から南部にかけて広く分布する石灰岩の地層。新生代第四紀更新世のサンゴ礁に起源する。

沖縄県では総面積の約3割を占め、台地や岬などを形成する。古くから建材として利用され、首里城や石畳の道などで見られる。